

# 鴻池荘 通所リハだより

令和2年  
2月号

通所リハビリテーションに期待されていること

## 新しい目標・課題



近年、「住み慣れた地域で、安心・安全・健康が確保され生活が継続されること」を目標とし、活動と参加に焦点を当てたリハビリテーションの推進が求められています。その取り組みの一つにリハビリテーション会議があります。この会議の目的は、ご本人、ご家族、ケアマネジャー等と情報共有をし、目標や介入方針を話し合うことです。多職種それぞれが持つ専門的な情報を共有し、利用者の生活に即した目標を

立て、目標達成に向けたリハビリによる介入、ケアマネジャーによるサービス調整がQOL、自立支援の向上に期待されています。

今回は、自宅でのリハ会議に医師が参加し、説明を行う事で医学的な視点が増え、利用者、ご家族がより安心した在宅生活の継続につながった一例を紹介します。

## 在宅生活での課題

独居にて身の周りのことを自分でされていた利用者。脳梗塞発症により、ベッドからの寝起きや車椅子の使用など、生活全般に介助が必要となりました。約半年間入院された後、ご家族が同居することで自宅での生活を再開することになりました。自宅に帰られてすぐは、自分で出来る気持ちも強く、一人で移動して転倒することもありました。その影響で、転倒への恐怖とそれによる『痛み』、『自分で動けない』『人に迷惑をかける』ことに不安を感じ、ベッド上で過ごす時間が増えるようになりました。それに合わせて通所リハを休まれることがありご家族も対応方法に悩んでおられました。

## サービス利用時の関わり

通所リハでは身体の評価と筋力・体力をつける運動、に加え、装具装着時の痛みに対し義肢装具士と再調整しています。移動形態が車椅子となり、生活変化が大きいことに対し期間限定で訪問リハを併用しています。

訪問・通所のスタッフ間で情報の共有を行い、不安解消に向けて動作やポジショニングをご家族へ説明し、徐々に車椅子に座る時間が増えていきます。



## リハ会議での医師参加

更なる生活状況の改善のためにリハ会議を医師と自宅へ同行して実施しています。実際の生活場面を医師が見ることで、治療方法や動作・道具の提案をより具体的にして頂く事ができます。

また、ご家族からも家に来てもらうことで、不安事、今後の方針を直接確認・相談することができたため、安心感へとつながることができました。

サービス紹介 言語聴覚士(ST) 聴く・話す・食べるを支援

## 摂食嚥下障害が疑われる方に対して



- ・喉を鍛える体操
  - ・姿勢
  - ・食形態
  - ・食べ方の工夫
- アドバイスしています！

飲み込みの能力を評価

## ☑摂食嚥下障害を疑うチェックリスト

- お茶や汁物等でむせることがある
- 半年前に比べて硬いものが食べにくい
- 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少があった
- 食事を残すことが増えた 等々…

いつでもご相談ください

## 作品展覧会inぶらんち

たくさんのご来場ありがとうございました！



みんなで一緒にぶらんちに行って準備や片付けをしました！

介護老人保健施設鴻池荘

TEL 0745(64)2180

受付時間 9:00～17:00

FAX 0745(62)1092

担当者：相談員

